

はじめに

暖かい季節になりましたが、今年はスギ花粉の飛散が多く、花粉症に苦しんでいる方も多いです。見上げると春の花々はいつもと変わらず咲いてくれています。以前のように賑やかなお花見の風景を見られる世の中に戻ってほしいものです。



町中の紅梅 in 東京原宿

糖尿病とチーム医療

糖尿病という病気の治療には、高血糖の程度だけでなく、血糖が上がった原因、併存する他の病気、遺伝的な体質、仕事を含めた生活環境、食事や運動の習慣、家族等のサポート体制、など様々な背景が関わってきます。このように多様性のある糖尿病患者さんに対して、一人一人に適した医療を提供し、それぞれの治療目標に導くためには、医師の力だけでなく医療スタッフによるチーム医療がたいへん重要です。

糖尿病患者の療養サポートのプロとして、日本糖尿病療養指導士認定機構認定糖尿病療養指導士（CDEJ）と地域糖尿病療養指導士（LCDE）の認定制度がありますが、ここ静岡県東部地区でも最近 LCDE 制度が立ち上がり、今年初めての資格試験も行われました。LCDE の資格を持った医療スタッフが増えることで地域の糖尿病診療のレベルアップにつながり、糖尿病は正されて、糖尿病患者さんがどこにいても安心して糖尿病の診療を受けられるようになることが我々の目標です。



静岡東部 LCDE マーク

糖尿病の検査 <尿糖>

今回は尿検査の項目のうち、尿糖について解説します。健常な状態では「糖」はエネルギー源として体に必要なものなので、尿中に捨てられることはありませんが、血糖値が高い状態では尿に糖が漏れ出るようになります。尿糖が出る血糖値の閾値は一般的に 180mg/dL 程度ですが、個人差があります。尿糖が陽性の際に同時に測定した血糖値がそれほど高くない場合は、それ以前に血糖値が高い時間があったと推測できます。稀に血糖値が正常なのに尿糖が陽性になる「腎性糖尿」と診断される人もいますが、その場合は糖尿病ではないので健康上の問題はありません。また SGLT2 阻害薬を内服中の方は、薬の作用によって尿糖が陽性になりますが、それは薬が効いている証拠と判断します。糖尿病は「血糖値」が高くなる病気なので、「尿糖」はあくまで血糖値の動きを推測する指標として使います。

糖尿病の薬 <インスリンと GLP-1 の配合剤>

現在わが国で使用されている注射薬にはインスリン製剤と GLP-1 製剤の大きく 2 つがあります。インスリンは血糖を下げる効果が強い反面、低血糖や体重増加のリスクが伴います。また基礎インスリンだけでは食後血糖がコントロールできないことも少なくありません。一方 GLP-1 製剤は低血糖や体重増加のリスクは少なく、食後血糖もある程度下げてくれますが、血糖降下作用が十分でないときもあります。

基礎インスリンと GLP-1 の配合剤が登場し、これまで別々だった 2 種類の薬を 1 回の注射で投与できるようになりました。ただしそれぞれの成分の配合比が決まっているため、必ずしもそれぞれの望ましい量を投与できるとは限らないという欠点があります。一方インスリンと GLP-1 のお互いの欠点を補いあう“いいとこどり”の薬ですので、初めての注射薬として最初からこの配合剤を使うという選択肢も可能です。